

ニューアプローチ中上級日本語 [完成編]

本文設問の解答例

は本文を解釈する上でのポイント、または質問をする場合、答える場合の注意点
//は他の解答例、()内は省略しても良い部分、(/)内は言い換え可能な部分
[]は解答と結びつく文章がある段落

第1課

(1) は (2) ~ (4) をした後にするのが望ましい。

また (1) の設問は次のように言い換えて学習者に問うのが望ましい。

「筆者はカタカナを使う利点は何だと言っていますか」

(1) カタカナを使うことによって、その新しい価値観や考え方を社会的な背景と一緒に示すことができる。

//カタカナを使うと、外来語の新しい価値観や考え方を社会的な背景と一緒に示すことができる。[第三段落の最後]

第二段落の最後の文章から、「カタカナを使う利点」が第三段落に書かれていると考える。そして、第三段落の最後に「つまり」でまとめられている流れを理解する。

(2) カッコいいとか新鮮な印象を与えます (/ 与える効果があります) [第一段落]

パラフレーズ : 「 ~ からという理由で使う 」 「効果がある」

(3) ・「セクハラ」の翻訳語は「性的嫌がらせ」です。[第三段落]

・「パラサイト」の翻訳語は「寄生」です。[第四段落]

(4) この設問は次のように言い換えて学習者に問うのが望ましい。

「セクハラというカタカナ言葉にはどんな意味が込められていると、筆者は考えていますか」

いまは「性的な嫌がらせ」が犯罪だと認められる時代になったという意味が込められています (/ 込められていると、筆者は考えています) [第三段落]

(5) 親と一緒に生活することがとても楽な生活だからです。

//家賃や食費の心配もなく、家事などの身の回りのことも親が世話してくれて、とても楽に生活できるからです。

それに、晩婚化が進んでいるからです。

//それに、晩婚化が進んで、結婚するまでの期間が長くなるからです。[第六段落]

本文では、「その上」とあるので、二つの理由を挙げるが、この二つは同列に扱える理由ではなく、一方が他方の原因になっているとも考えられる。

(6) この設問は次のように言い換えて学習者に問うのが望ましい。

「パラサイト・シングルというカタカナ言葉にはどんな意味が込められていると、筆者は考えていますか」

親と同居を続ける未婚者は大人と言えるのか、自立とはどういうことなのか、自立が難しい社会、晩婚化が進む社会とはどんな社会なのかということを考えてもらいたいという気持ちが込められています(/ 込められていると、筆者は考えています)。

[第七段落]

この段落の内容がすべて答えとなるが、一つ一つ理由を挙げて、「それに」でつなげて答えてもよい。

パラフレーズ：「～は問い掛けている」「気持ちが込められている」

この言い換えが難しいようであれば、本文の表現をそのまま使って答えても良い。

(7) 「セクハラ」は英語から輸入されたカタカナ言葉ですが、「パラサイト・シングル」は国産のカタカナ言葉 (= 和製英語) です。

「本文を読む前に」で動機付けした「和製英語」とのつながりを確認する。

第 2 課

(1) (日本で) 半世紀も前に子どもたちを夢中にさせた S F 漫画の主人公のことです。

[第一段落]

(2) 設問では「だれに」となっているが、本文を直接引用するなら、「何に」と考えても良い。

「だれに」と「どのような影響」は、二つの文にしたほうが答えやすい。段落の最後の文章が「～ロボットを作りたいと。」で終わり、その後が省略されている点に注目。この部分が影響の内容になっていることを理解する。

・日本におけるロボット開発に影響を与えました。[第一段落後半]

//日本でロボット開発をする技術者に影響を与えました。

・いつか人間と共存し、人間にはできないことをやってくれるアトムのようなロボットを作りたいという気持ちにさせました(/ 気持ちになりました)

[第一段落最後]

パラフレーズ：「～に刺激を与え続けてきた」「影響を与えた」

(3) 完全二足歩行です。[第二段落]

なぜそれが困難なのかは、第三段落の内容や写真から考えてみる。

(4) (人間らしいロボットにこだわり続けた技術者たちが、) 二足歩行ができる人間型ロボットをデビューさせた年です(/ させるという結果を出した年です)。

[第四段落]

第四段落の最後に、「この2000年は・・・技術者が、一つの結果を出した年だった」とあるが、この「一つの結果」が何かを答えさせる。そのためには第四段落の「そして2000年、ついに人間型ロボット「ASIMO」をデビューさせた」という文と関連づける必要がある。

(5)・人間と共存し、人間にはできないことをやってくれるアトムのようなロボットで、人間に愛されるパートナーとしてのロボットを目指していました。[第一段落の最後 + 第五段落]

本田が目指していたものが何かは、直接かかれていないが、第一段落からの流れを考えれば、第一段落の最後と第五段落の内容だと考えられる。上の解答例には両方を併記しているが、どちらか一方のみ答えても良い。

・いいえ、まだ完成していません。(技術者の挑戦は続きます。)

鉄腕アトムについての記述と比べれば、「人間のように歩くこと」はある程度まで達成できた(=一つの結果を出した)が、それ以外の、「会話もできる」「空を自由に飛び」ということになると、まだまだ道のりは遠いことがわかる。

第3課

(1)・いいえ、広がると思っていませんでした。

・ヨーロッパの食文化は日本とずいぶん違うから、その運動はイタリア(ノヨーロッパ)だけのことだと考えていました。[第二段落]

(2)食べ物規格どおりに生産される一方で、各地域の伝統的な食がすみに追いやられ、食の多様性が失われつつある、という危機感のことです。[第三段落]

第二段落最後の内容が次の段落で具体的に展開していくことを理解する。

(3)ゆっくり食事を取ることで、普段何気なく口にしている食べ物に目を向け、その食べ物を通して、自分たちの住む地域、国の食文化を見直していこうという意味が込められています。[第五段落]

第四段落の内容(=「ゆっくり食べようじゃないか」との対比で理解させる。

「スロー」は「ファーストフード」の「ファースト」に対して名付けられたのは確かだが、スピードそのものが問題になっているわけではないことを理解する。

第4課

(1)嫌なものがとりあえず目に見えない状態になると安心する、という点で共通しています。[第二段落最初]

(2)焼却によって有害なダイオキシンが発生します。(そして、埋め立てによって土壌が汚染されます)[第三段落]

埋め立てによる汚染は直接健康に影響を与えるものではなく、最終的に水や食べ物を通じて影響を与えるものなので、答えとしてはダイオキシンのみで良い。

(3)今は昔と違って、ゴミを減らそうと考えるようになったからです。

//(昔はゴミとして捨てるようなものを、捨てずに別の用途に使う人はけちだと思われていましたが、)今はゴミを減らそうと考えるようになったので、けちというレッテルが張られなくなりました。[第四段落]

本文には直接答えにつながる記述はないが、第三段落の最後から第四段落への流れから推論できる。そのためには談話の流れを次のようにまとめてみる。

第三段落最後：「とにかくゴミの量を減らさなければと考えた」

第四段落 方法（１）資源として再利用して新しい物を作る ゴミの分別

方法（２）まだ使えるなら、ほかの人が使う フリーマーケット

方法（３）別の用途に使う

方法（３）について「けち」というレッテルが張られなくなった、と言っている
ので、第三段落とつなげて考えれば答えが出る。

（４）「３つのR」については、日本でも取り組んでいるようです。[第五段落]

パラフレーズ：この答えは直接は書かれていないが、「３つのRが取り上げられることが多いようだ」という記述から考えて答えを出す。

実際に、取り組みがどの程度進んでいるかは明確ではないので、その点については無理に答えを決める必要はない。

（５）まず、スーパーでただでもらえる袋や本屋で当たり前のようにつけてくれる紙のカーパーを断ることで。それから、消費者としてゴミになる無駄なものを買わないことや、生産者がゴミになるものを作らないということも含まれます。[第六段落]

本文で「～も含まれる」と書かれている部分の解釈がポイント。答えには、第六段落の最初の説明も含まれることを理解する。

（６） ゴミ問題に対する意識を考えてみる。

第5課

（１）・十八歳で田舎から出てきた。[第一段落]

・今は結婚して子供が二人いる。[第二段落]

・平凡な生活を送っている。[第二段落]

・子供のころは冒険があった。[第二段落最後「私が田舎で経験した冒険がない」]

・（子供のころ、自然の中で泥だらけになって遊んだ。[第二、第四段落]）

最初の四つはそれぞれの段落に書かれているとおりだが、五つ目は類推できること。無理に挙げる必要はない。

（２）・整備されていません。

// 「遊びのもと」が転がっているだけです。[第四段落]

・「それは危険だから禁止します」といったルールがありません。[第四段落]

・自分の責任で自由に遊ぶことができます。[第五段落最初]

（３）（ブランコや滑り台のような遊び道具が初めからあるのではなくて、）木や段ボールなどが集められているだけだという意味です。[第四段落]

（４）この冒険広場を見て自分の幼いころの思い出と重なるものがあったからです。

「第四段落最初」

//この冒険広場には自分が田舎で体験した冒険があったからです。[第三段落]
この答えは、第三段落からの談話の流れをとらえれば出るはず。

第6課

(1)・一つは、(全体の量や程度ではなくて)平均する方法です。

・もう一つは、全体をだれにもなじみがあるものに置き換えて示す方法です。

[第二段落]

この質問の答えは、第二段落だけから出すこともできるが、実際は一通り最後まで目を通して、全体をとらえることが必要である。

(2)・「数を実感する」というのは、(単なる数字の塊ではなく)その数がどの程度の大ききさなのかを実感するという意味です。(たとえば、日本で一年間で消費されるビールについて、710キロリットルと言うより、東京ドーム5.7杯分と言うとその大ききさが実感できるということです。)[第一～第二段落]

・「数の意味を実感する」というのは、大ききさを実感するとともに、その大ききさがどんな意味を持っているかを考えさせられるという意味です。[第三段落]

//「数の意味を実感する」というのは、数の大ききさを実感するとともに、ことの重大性やはかなさを感じ取るという意味です。[第六段落]

パラフレーズ:「実感する」「頭が刺激される」「考えさせられる」

第六段落と結びつけるのは談話の流れをつかまないとできない。全体の流れをつかませるのなら、第六段落とのつながりを理解させる。

第三段落～第五段落:具体例

第六段落:まとめ「こうして……。すなわち……」

・「数の意味を実感する」のほうを強調して書いています。

第六、第七段落のまとめにあたる部分からそのように考えられる。

文型は「～と同時に～」と並列して提示しているが、話の展開から後者が強調されていることがわかる。

(3)・「地球カレンダー」と「教室」とで、共通していることは、全体を身近なものに置き換えてみるということです。

・二つが異なる点は、置き換えるものが、前者はカレンダーという「物」ですが、後者は教室という「共同体」だという点です。

[第六段落:『置き換えるものを身近な「共同体」にすると、先の二つの例(=紙の量、人類の誕生)とはまた違った実感の仕方ができる』]

この質問の答えは、全体の話の流れをつかまないと難しい。

実感する方法については、まず大きく二つに分類でき、さらに後者が二つに分かれていることを理解する。

【大ききさ/程度を実感する方法】

- 1) 平均する(一人あたり～で考える)
- 2) なじみのなるもの/身近なものに置き換える
身近な「物、建物」に置き換えて考える
東京ドーム、富士山、カレンダー
身近な「共同体」に置き換えて考える
教室、村

(4) 「100人のうち5人」では、ただ数字の上だけのことのように感じますが、「教室」は自分と関係のある共同体なので、身近に感じます。それで、その数の意味をより実感できます。

[第六段落]

(5) 「100人の村で5人」は「100人のうち5人」よりは実感できますが、「20人の教室で1人」ほど強く実感しません。

これは人によって答えが異なることが予想される。学校などで、クラス単位で勉強している人にとっては上の解答例のように感じると思われるが、そうでない人にとっては、「教室」より「村」のほうが強く実感するだろう。

結局、その人にとって「共同体」として強く意識するものを使えば、強く実感できるということを理解すれば良い。

第7課

(1) Bのパターンの時です。「第五段落」

(2) ・ Aの場合は、自分の能力に原因があると考えるので、「どうせやっても無駄だ」という無力感につながるからです。(つまり、能力がないから、努力しても無駄だ、いつも同じ結果になると考えるからです。)[第五段落]

・ Dの場合は、(自分が悪いわけではなく、)運が悪かっただけ(で、普通だったら失敗しないはず)だと考えるので、今以上に学習しようという気になりません。
[第五段落]

Cの場合は、直接解答となる記述は本文にないので、第三段落から第五段落の内容から考えることになる。

* 安定 + 外部 いつも同じ結果になる + 外のものに原因がある

・ Cの場合は、失敗したのは、外のもの(=仕事)に原因があると考えて、そのように難しいものはいつもできないと考えるので、それほどやる気が出ません。[第三～第五段落]

(3) 本文122頁と123頁の1～4の項目を参考にしながら、それを「ドライブと地図」の場面にあてはめてみる応用問題。

「内部」「外部」の違いに注意して考えてみる。Dの「運」については、単に「運が悪かった」とするだけでも良い。具体的にどのように悪かったのかを考えると、

C「課題の難易度」と区別が難しくなる場合があるので注意する。CとDの区別は「安定」か「不安定」かなので、Dの場合は、課題が難しいからという理由ではなく、そのような難易度のものは、普通ならできるのに、「偶然の出来事によって、たまたまできなかった」と考えることである。そのような内容になるように注意する。

それぞれ二つずつ解答例をつけたが、もちろんこれ以外にも考えられるので、本文を理解した上で、自由に考えさせる。

A 自分の能力のなさだと考える

「私って方向音痴なの。また間違ってしまったわ」

「僕って、地図を見るのが下手なんだ。いつも反対のほうに行っちゃって」

B 努力が足りなかったせいだと考える。

「もっと注意して地図を見ていればよかったわ」

「あ、あそこでうっかり標識を見落とししたのかも」

C 外のものが悪いと考える。

「こんなごちゃごちゃしたところ、迷わないほうがおかしいわよ」

「この地図、古いんじゃない。地図のとおりに来たのに」

D 運が悪かったと考える。

「ついてないわね。雨さえ降ってこなければ・・・」

「ついてないよね。カーナビが故障さえしなければ・・・」

(カーナビが故障したので、地図を見ながら行くことになった)

第8課

(1) 辞書は皆が知っているからといって(その言葉の説明を)省略できるわけではないという意味です。(つまり、たとえ基本的でだれでも知っている言葉であっても、現在使われている言葉であれば、載せなければいけないという意味です。)

[第二段落]

(2) ・ 結局何も説明したことになっていないものが多いです。[第二段落後半]

二番目の「なぜですか」の答えは、直接本文には書かれていないが、第二段落の「だから仕方なく書いているというわけでもないだろうが」という表現がヒントとなる。「～わけでもないだろうが」という言い方から、実際はそうではないだろうが、そういう面があることは否定できない、と解釈できることを理解する。もし、これが難しいようであれば、次の設問3と関連しているので、ここでは省略してもいいが、なぜ「右」の説明に「左の反対」としか書かない/書けないのかを考えさせておけば、次の設問3の答えが出やすくなる。

・ 基本語というのは、辞書で勉強するのではなく、生活の中で自然に身に付くものなので、その意味をさらに基本的な言葉で説明するのは難しいからです。

[第二段落]

(3) 基本語の定義をするのは難しいことなのですが、「左の反対」のような簡単な説明で済ませるのではなく、なんとか定義しようと努力して、)その言葉の意味を知らない人が読んでも理解できるように説明しているからです。[第二～第三段落]

答えは直接本文には書かれていないので、内容から類推する。

第二段落の「右」の定義と第三段落に紹介されている「右」の定義を読み比べて、筆者が「おもしろい」と感じる点を類推する。

談話の流れは、＜基本語の定義はつまらない／何も説明したことにならない＞
（当たり前すぎて説明が難しいからだ） ＜しかし、おもしろいもある＞ ＜苦心の跡が見える＞となる。

(4) 辞書にはない説明を考えてみるということです。[第四段落最初]

第四段落の最後の「その取り出し方次第では、別の説明が可能になる」という文章の解釈を考えさせても良い。

(5) 「学校」の定義と同様に、定義の仕方が一方的で、味気ないからです。

//たいていの辞書で「学校」の定義が一方の視点(=大人、教える側の視点)で書いていたように、「刑務所」の定義も一方の視点(=収容する側の視点)で書かれていたからです。[第四～第五段落]

(6) 辞書の定義とは異なる視点で言葉の意味を考えて、意味の広がりを実感することです。

設問4の「頭の体操」と同じことを指しているが、ここでは第六段落の内容をふまえて、作文する。

第9課

(1) ・「薬物によるドーピング」は元々自分の体にはない物質を取り入れますが、「血液ドーピング」は元々自分の体にあった血液を一度出したあとに取り入れます。

[第三段落後半]

この設問は、談話の流れをつかむことで答えの場所を見つけることが目的。

第一段落：ドーピングについての導入

第二段落：通常ドーピングと言われるものについての説明

第三段落：近年関心を集めている「血液ドーピング」についての説明

このような流れをつかみ、両者の違いが第三段落の後半の文章に書かれていることを理解する。

・たとえ自分の体にあるものでも、人間の営みとして不自然な行為で安易に成果を得ることは不正な行為だからです。[第三段落最後]

(2) 両方とも血液中の赤血球を増やすために行うという点で同じです。しかし、「血液ドーピング」はIOCがドーピングとして禁止しているのに対して、「高地トレーニング」のほうは、禁止されていません。[第四～五段落]

(3) はっきりとドーピングだとは考えていませんが、通常の高地トレーニングと比べて、ドーピングに近いと考えているようです(ノドーピングに近いのではないかと疑問を投げかけています)。[第五～第七段落]

直接本文には書かれていないので、談話の流れから類推する。

第五段落：通常の「高地トレーニング」は、（一部ではドーピングだと言う人もいるが）人体への負担もかなりあり、トレーニングと呼べるものなので、筆者はドーピングだとは考えていない。

第六段落：しかし、「平地の高地トレーニング」の手軽さは、「血液ドーピング」の手軽さに少し近づいているので、問題ではないかと疑問を投げかけている。

第七段落：「平地の高地トレーニング」の問題点を指摘（「血液ドーピングとどこで線を引けばいいのかという問題が出てくる」）

(4) 科学や医学が進歩した結果、トレーニングとドーピングの境界線があいまいになってきて、どの程度「不自然」な場合に「不正」になるのか、その判断が難しくなってきたという意味です。[第七段落]

「不自然」と「不正」と「手軽さ（安易に成果を得る）」の関係を本文の談話の流れに従って、次のようにまとめてみる。そして、問題となる「平地の高地トレーニング」が、<トレーニング>と<ドーピング>の中間の曖昧な境界線に位置していることを理解する。

<ドーピング>の側から考える

A 元々自分の体にはないもの（＝薬物）を取り入れる
* 明らかに不自然な行為 * 手軽（安易に成果を得る）
× 不正な行為である 「薬物ドーピング」

B 元々自分の体にあるもの（＝血液）を出し入れする
* 不自然な行為 * 手軽（安易に成果を得る）
× 不正な行為である 「血液ドーピング」

C Bと同じ目的で、普通の場合（平地）で、低酸素濃度の環境で練習する
? 不自然な行為 * Dより手軽に練習できる（負担が少ない）
? 不正行為 「平地の高地トレーニング」（科学的トレーニング）

D Bと同じ目的で、高地で、低酸素濃度の環境で練習する
? 不自然な行為 * 人体への負担が大きい
不正な行為ではない 「高地トレーニング」（科学的トレーニング）

E 普通の場合で科学的に考えて効果が出る練習をする
* 明らかに自然な行為 * （厳しい練習）
正当な行為 「科学的トレーニング」

<トレーニング>の側から考える

第10課

この課の前半では、登場人物、そしてマニュアルについて、肯定的な見方と否定的な見方の両方を紹介しているが、後半では、それを踏まえて筆者の主張（＝ユーモアセンスの効用と必要性）が展開されている。

- (1) 「カルボナーラになります」は、まだカルボナーラではないものが、カルボナーラに変化するという意味なので、理屈に合いません。[第二段落＋漫画の二コマ目]
漫画の二コマ目の客の台詞から考える。

設問2、3は第四段落の「～も～なら、～も～」という表現を読み取ることがポイント。

- (2) 言い分はもっともですが、決まり文句を（変な表現だと）いちいち指摘するのはどうかしているという考えを示しています。[第三段落＋第四段落前半]

- (3) マニュアルに頼るのではなく、臨機応変に対応することを学ばなければならないという考えを示しています。[第四段落]

// 揚げ足取りをする客にまじめに対応するのはどうかしているという考えを示しています。

// 決まり文句を指摘されて、それをまじめに受け取るのはどうかしているという考えを示しています。

- (4) マニュアルに頼らない臨機応変な対応の例として紹介しました。[第七段落最初]
「臨機応変」な例として紹介されているが、これは次の段落に書かれているように、ジョークの例である。筆者が勧めているのは、臨機応変な対応で、かつユーモアセンスのあるものであることに注意する。

- (5) ジョークはあくまでも言葉遣いのテクニックの一つだと考えています。（その使い方によっては相手を楽しませる笑いにも、傷つける笑いにもなります。）一方、ユーモアは、（そのようなジョークの要素もありますが、それよりも）もっと大切な社会的な役割を担っていると考えています。[第八段落]

- (6) これは本文の趣旨に従って自由に考える問題である。ポイントは、お客に「なかなか面白いことを言うね。また食べに来るよ」と言わせるようなユーモアセンスがあるものにすることである。もちろん、趣旨が理解できたら、ユーモアにこだわらず、ジョークとして笑えるものをいろいろと考えてみて発表してみても良い。

<例>

お客：すでにスパゲティカルボナーラになっているじゃないの。それともこれからそれになるわけ？

店員：お客様のおっしゃるとおりでございます。当レストランでは、お客様が食べる時に、一番おいしくなるように作っております。あ、お客様、今ちょうど一番おいしいカルボナーラになりました。どうぞお召し上がり下さい。

第11課

- (1) 高所得になればなるほど税金として取られる割合が増える仕組みです。
[第三段落最初]
- (2) 直接税と間接税の比率を示したものです。[第四段落最初]
- (3) 課税が国民に公平なものかどうか判断する上で参考になる指標だからです。
[第二段落最後]
- (4) ・ 図 1 からわかることは、日本は最高税率が主要先進国並みであることと、中・低所得者層の税負担が比較的低くなっていることです。[第三段落最後]
- ・ 図 2 からわかることは、欧米の主要国と比較すると、日本は直接税が高いほうだということです。[第五段落最初]
- (5) ・ 間接税の比率がもう少し高くなりそうです。
- ・ (今後急速に高齢化社会を迎えることになり、相対的に労働年代の人口が減少していくと考えられるので、) 所得税 (などの直接税) よりも、(所得と関係なく徴収できる) 間接税により高い比重を置き、課税の時期を労働年代中心から生涯にわたるものに広げていったほうが、税の公平という点で望ましいと考えるからです。[第五段落後半]
- (6) 税率が引き上げられた時は、怒りを表すけれども、時間がたてばそれに慣れて何も言わなくなるということです。[第七段落]
- (7) 第一段落から第六段落までの流れを整理して、筆者が何を主張しているのかをつかむ。下にまとめたように、第二段落で一度筆者の主張が述べられたあと、第六段落でもう一度まとめられている。「税金への関心」と「政治への関心」の関係について理解することがポイント。第二段落と第七段落のどちらの文章を使っても良い。
- ・ 税金に関心を持つことが政治へと目を向けるきっかけになるので、まずは税金にもっと関心を持つことが必要だということです。[第六段落]
- //税金への無関心が政治への無関心に結びついているので、まずは税金に関心を持つことが必要だということです。[第二段落]
- (8) サラリーマンも確定申告をすることになれば、税金への関心が高まると考えられます。(なぜなら、源泉徴収が税金に関心をもたなくなる原因の一つだと考えられるからです。)[第七段落]
- この設問は、< 本文を読む前に > で「確定申告」というのがどういうものか問題意識を持たせておくことで、理解が深まる。

第12課

- (1) 図 1 は、進化の過程を直線的な流れで示しているので問題があります。(実際の過程とはかけ離れています。)[第五段落最初]
- (2) はるか昔にヒトがチンパンジーと共通の祖先と別れて、進化の道を歩み始めた時期 (= 分岐点) を示しています。[第五段落前半]
- (3) チンパンジーです。[図 2 : チンパンジーの樹が一番 に近いことから]
- (4) チンパンジーがヒトに進化することはありません。(図 2 で示されているように樹の枝が分岐しているので、チンパンジーはどこまでいってもチンパンジーです。)[第五段落後半]
- (5) (種のレベルでは) 人間には兄弟がいません。(兄弟にあたる種はすでに絶滅してしまいました。)[第六段落後半]
- (6) ・ 現代人の先にもう一つの分岐点ができるかもしれません。そして、分岐点ができたとしても、図 2 (= 歴史) が示すように、その子孫は絶滅するかもしれません。[第六段落前半]
- ・ 核兵器や地球規模の異変などによって、人類が滅亡するおそれがあります。また、医療技術の進歩によって、ホモサピエンスという「種」とは違ったヒトが誕生することもあり得ます。[第七段落]